１９８０年5月7日　第三種郵便物認可　　２００９年7月１５日発行　　ＫＡＳ１２３１号

KAS 風の谷 VIEW（びゅう）

社会福祉法人　風の谷
相模原市田名７２３６－３
発行責任者　政野　光廣
０４２－７６０－１０３３
http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/
e-mail:ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

来年も、十年先も待っています。

この子達の成長とともに…。

地域交流バザー特集号

【２００９年　　夏号】

◇巻頭文　Ｐ２
◇研修報告　自閉症支援センター　Ｐ３
◇特集：地域交流バザー　Ｐ４～Ｐ５
◇中学生の職場体験実習を受けいれて　Ｐ６～７
◇後援会のページ　Ｐ８

発行人　神奈川県自閉症児・者親の会連合会　代表者　内田照雄　〒243‐0035　厚木市愛甲 910-1 ｺｰﾌﾟ野村 6-109
毎月 15 日発行　　購読料 1 部　50 円

人権を守る拠点に

新年度を迎え、わたくしたち障害福祉関連施設（事業所）では、新規事業計画や個別支援計画に基づいて積極的な取り組みが始められている、まさにそのような時期に、神奈川県内の知的障害福祉関連施設において相次いで不祥事が発覚しています。その内容は女性利用者への性的虐待(２法人)、利用者の預かり金の着服等（２法人）です。そして、そのすべてが職員により引き起こされたものでした。

女性利用者への性的虐待が発覚したある法人では、当初一人と見られていた被害者が、実際は十人にも上ることがその後の調査委員会による聴き取り調査等により明らかとなりました。そこまで被害が広がっていたことに、関係者はなぜもっと早く気づき対策が取れなかったのか。わが身に置き換え、もどかしく且つ無念の思いでおります。

また、利用者の預かり金の着服については、被害額がそれぞれ約３３０万円および約２６０万円と多額なのですが、それぞれ４年から１０年にわたり着服を繰り返し続けた結果であるとのことでした。いずれも利用者の知的障害という弱みにつけこんだ卑劣な犯罪ではありますが、「(着服の)最初は一本の缶コーヒーから始まったことです」との当該法人理事長からの報告を聞いて、わが身を厳しく律し利用者を守り抜かねばならないとの思いを新たにしました。

大変残念かつ情けない話ではありますが、障害福祉の現場に身を置く者の実感として、これらの不祥事は氷山のほんの一角にすぎないのではないかと想像しています。といいますのは、この障害者福祉の世界が、たとえ措置制度から利用契約制度へと、より利用者本位の制度になったとはいえ、障害福祉施設（事業所）は利用者に対して圧倒的な売り手市場であることに変わりがないからです。そのうえ「改革」の名の下に、正規雇用が前提であった障害福祉の現場では規制緩和に伴い職員の非常勤化が進み、福祉的な価値観や素養が決して十分とはいえない人間を採用し配置しなければならないというジレンマの中にあることも、一連の不祥事の要因の一つとしてはあるように思います。

先の、着服を繰り返した職員が「自分のものと利用者のものの区別がつかず、マヒしていた」と話していたとのことですが、この感覚マヒを引き起こしやすい職場環境にあることを組織としてどこまで自覚していたのか。また、職員にその自覚を促していたのか。それこそが問われているように思います。例えば、重い知的障害のある自閉症の方に、職員が本人の意に沿わない不適切な対応をしてしまったとしても本人からの指摘や抗議を受けることはほとんどありません。職員側の緊張感の欠落によるミスや社会性の低さに起因した未熟な対応にも親御さんやご家族は寛容で、逆に感謝の言葉をかけていただいてしまうことさえあります。このように、立場の弱い人を相手にすることで自尊感情も容易に満たすことのできる特異な職場環境が、職員の感覚マヒを引き起こし、さらにそれを進行させてしまう怖れを孕んでいるのではないでしょうか。このアンバランスな関係性をどれだけ組織として自覚できるのか、また一人ひとりの職員がそれを自覚して日々の支援に当たることができるのか、そのことが利用者の人権を守れる組織になれるか否かの分岐点になるのではないかと思います。

このたびの一連の不祥事に、神奈川県知事から「社会福祉施設等における不祥事の防止に関する緊急アピール」が去る６月２６日に発せられ、それを受ける形で、常勤、非常勤の職員と職種を問わず利用者の人権について話す機会を数次に分けて設けました。その中で、障害福祉施設（事業所）として人権意識を共有し、それをさらに高め深化させていく取り組みを強化する必要性を痛感した次第です。そのためにも、**非常勤職員のミーティング**を定例開催していくなど、**職員間の意思疎通を積極的に図るとともに目指すべき方向性を確認し**、利用者の人権を守る拠点としての役割が果たせるように、職員一同、一層気を引き締めて努めていきたいと思います。

今後とも、さらなるご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。　　施設長　中島博幸

「相模原自閉症支援センター」便り

梅雨の季節に入り鬱陶しい天気が続いています。この季節は体温調節等が苦手な自閉症の人達にとっては、つらい季節の一つではないかと思います。天気に左右される為、活動範囲が狭まったり急な予定変更も多くなりがちです。自閉症圏の世界で生きている人達には直接経験が重要で、まだ起こってもいない未来を想像する事は苦手です。その大切な直接経験の場の不安を、少しでも解消できるように準備をして、その活動に幸せを感じられる瞬間が増やせたらと思います。

さて、最近流行の言葉にコンシェルジュと言う言葉があります。皆さんも一度は触れたことのある言葉だと思います。コンシェルジュは本来フランス語で「集合住宅の管理人」という意味で、そこから解釈を広げホテルの宿泊客のあらゆる要望、案内に対応する「総合世話係」というような職務を担う人の職名として使われるようになったようです。いまでは、ホテルだけでなくデパートや空港、駅等にもそれぞれのお客様(利用者)の要望、案内に対応するコンシェルジュが存在しています。現在では様々な職種でコンシェルジュの方々が活躍していますが、共通しているのは「あらゆる要望に応える、NO と言わない」を基本理念に持っている事のようです。そのために様々な情報、知識、知性を備えた人物だけがコンシェルジュと呼ばれる職に就けるようです。

相模原市は、平成 22 年度の政令指令都市移行を目指しています。このまま順調に行けば、人口規模最小の政令指定都市が来年春には誕生するようです。その相模原市には障害者自立支援法に基づく「相模原市障害者自立支援協議会」というのがあるのをご存知でしょうか。これは今年 3 年目を迎える組織で、行政と民間の関係者で構成されていて、市の障害福祉の仕組みづくりの役割を担っています。政令指定都市になってからの障害福祉政策を担う上でも重要な組織であります。その自立支援協議会のなかに私が参加している相談支援体制を考える相談支援部会があります。

相模原市の相談窓口は、市の保健福祉総合相談課以外にも指定相談事業所が 17 ヶ所存在しています。一口に相談と言っても、内容も人それぞれで違うし、その時々で全く違うものになります。しかし、市民への相談支援体制の周知すら出来ていないのが現状です。その部会員として活動しているなかでも、コンシェルジュと言う言葉がよく出てきました。その時に、TEACCH プログラムが支援者に求める資質として“ スペシャリストではなくゼネラリストでありなさい ”と書いていたのを真っ先に思い出しました。もちろん本質的な部分で違いますが、近い感覚を抱きました。特に福祉サービスの利用において、多様なニーズの一つ一つに合わせて対応するコンシェルジュの必要性はとても高いものを感じています。そのためにも、最新の情報と知識を備えた「福祉コンシェルジュ」が必要なのでしょう。私たちも目の前にいる一人ひとりの当事者に最良の情報を提供できる、「福祉コンシェルジュ」を目指して行きたいと思います。子供達がこれからの仕事を選ぶときに、福祉と言う仕事のプライオリティが高くなるような「福祉コンシェルジュ」が、相模原市の相談支援体制に根付けばよいなと思います。

自閉症の人達や家族が利用したいと思えるコンシェルジュを目指して頑張りたいと思います。

これからも、応援どうぞ宜しくお願いいたします。（西村三郎）

やまびこ工房地域交流バザー2009

今年もたくさんの方々の協力のもと、地域交流バザーを開催することが出来ました。毎日顔を合わせているおなじみの顔、時々すれ違うご近所の顔、一年に一度ここで出会う懐かしい顔、たくさんの方々に来ていただきました。天気も日差しが程よく遮られて、皆さんゆっくりと楽しまれていました。

―初めて参加したやまびこ工房バザー

後援会の方々、ボランティアの方々、本当にお疲れ様でした。当日は間もなく終了という時まで何とか雨も降らず、皆様の日頃の行いの善さをつくづく感じられるバザーとなりました。

先に勤めていた職場では職場全体にとって年一度のバザーは真に一大イベントでした。実行委員になってしまった職員は遅くとも 3 ヶ月前から準備を始め、一ヶ月前から揃って残業の毎日。一週間前ともなると自身の仕事はそっちのけで、睡眠時間を削りながら当日の朝を迎えるのが通例となっていました。そこまでして何故？と思うでしょう。一つは楽しみにしている利用者の為、二つ目は地域に施設をもっと認知してもらうことでした。建ってから何年経っても地域での知名度は中々広がらず、施設が地域から取り残されている感がありました。少しでも施設のことを知ってもらう為に毎年大変ながら続けていたのです。今回のバザーでは、当日近隣の農家の方から大根･キャベツ･ミズナの大量の差し入れがあったことを考えると、やまびこ工房は既に近隣の認知を獲得していると思われます。

療育の現場に支障をきたさないように、しっかり利用者対応に専念してもらいたいからといった理由からでしょうか？今回の工房職員参加はほぼ当日のみ、準備の殆どは家族会の方々が手配してくれていました。有難いのと以前の職場との違いに戸惑いを感じながらも、当日若干早く出勤し、看板立てから開始しました。現場ではテント張りとフランクフルトの焼きと販売。お母様方のパワーとおしゃべりに圧倒されながら、指示通り動くのがやっとでした。お陰様で役に立たない私が移動を命じられ、駐車場で車の誘導をしている間にフランクフルトも全部売り切れ、めでたく終了の時を迎えました。後援会の皆様のパワーと熱心さに改めて敬服させられたバザーでした。　（上条）

長野県飯田産カブトムシ幼虫叩き売り!!　「安いよ!安いよ!!」でも買うのはなぜか女の子。男の子はもう育ててる。

焼きそばペア３年目。焼くは「拘りの焼きそば、あ～忙しい！忙しい!!」

今年の舞台を盛り上げてくれたのは、♪フルート三重奏“イベリス”♪の皆さんです。「好きにならずにいられない」「G 線上のアリア」「アラジン」など幅広いジャンルの演奏に酔いしれました。

入口を入ってボーリングコーナー。新企画ものです。時間が経つにつれ子供たちの列が伸びてきました。

手作り品コーナーです。毎年少しずつですが新しい製品が増えています。今年は「ストピカ」「レターセット」がラインアップに加わりました。

衣類・雑貨コーナーです。掘り出し物見つかったかな～。お昼を過ぎるとタイムセールが始まりま～す。

最初の頃から比べると刺繍の種類も豊富になっています。手の込んだ手芸品は後援会のお母さん方の作品です。

こちらは喫茶での一コマ。珍しいお客さんも来店してくれました。

自閉症を伝える

中学生の職場体験から

そのときの感想から

中学2年生Aさん

三日間、職場体験と言うことでかよって、とても自閉症の方たちが楽しそうに仕事をしたり、散歩をしたりしていたことにまずおどろきました。自分の中のイメージとしてはもっと大変そうな感じがしていたけど、実際にやまびこ工房に来て、自閉症はどんな感じなのかも分かったし、みんな楽しそうだったので、自分も楽しかったようにおもいました。

作業準備中

中学2年生Bさん

やまびこ工房の人達は皆良い人で、一人一人の気持ちを否定しないでそれを素直にうけとめてくれる人たちだな～と思いました。この仕事は自閉症の人達をただおせわするだけじゃなくて、その人達は何ができるか、どんなことが楽しいかなと、一人一人の可能性を見つけてそれをサポートする仕事なのかな～と思いました。

中学校より職場体験をしたい生徒が 2 名いるという問い合わせがあったとき、まず最初に「やめてくれ～」と心の中で小さく叫んだのでした。しかし断ることも出来ない状況だったようで渋渋受け入れたのでした。利用者にあまり関わらないでもらって、仕事の手伝いをしてもらうつもりだったのです。不用意に関わられると利用者が調子を崩してしまうし、偏見で自閉症者を見られたくないと思っていたのでした。

第一日目

いいタイミングで受注の仕事がありました。ダイレクトメールの封筒入れの仕事です。その手伝いでもしてもらおうとまずやまびこ工房の“工場”と呼ばれている部屋に入ってもらいました。ここで働く利用者は部外者がいてもそれほど気にする方たちでないからでした。午前中黙々と 2 人は働き、工房の食堂で食事をしました。お替りを勧めても緊張していたようで、お替りせずに食事を終えていたように思います。食後、すぐにまた仕事に取り掛かっていました。休憩なしで。息抜きに利用者と一緒に散歩でもと誘ったのですが、納品の期日を気にして断ってきました。休憩を促しても仕事をしていました。

こんなに熱心に取り組む姿をみると何かいい体験をして欲しいと思えてきます。帰りに自閉症者との関わり方を簡単にまとめた冊子を渡しました。それはいつも新人職員に渡しているものです。「関わって欲しくない」から「関われるのでは」と思えてきたのでした。支援するときは常に物の見方を柔軟にしておく必要があります。利用者に対する見方はある程度決まっていますが、人間なので当然変化はありますし、成長もしますし、それを見逃さず、見方を変えることは大事です。また物事を伝えるいいチャンスの時もあるのです。その機を大切にします。体験に来た中学生の様子を見て、自分の見方が変わりました。そして成長のチャンスに思えました。ただ自閉症を説明するのは難しいのです。中学生にどう伝えるかは未知なる体験でした。

自閉症を感じる

第二日目

まず残りの受注の仕事を終えてもらいました。１階の工場を出て 2 階へ。ここは見学者が来ても長居はしてもらわないところです。利用者がとても気にするからです。場合によっては調子を崩される方もいます。それなのにどうして？「彼らなら大丈夫」と思ったからです。あたかもこれからやまびこ工房で働き始める人と同様に頑張っていたからです。しかも熱意を持って。そういう人には利用者は寛容です。２階へ上がる前に心構えを伝えました。
「これからやまびこ工房で働くと思ってください。自分の年齢は 20 歳だと思ってください。言葉は敬語です。友人同士でも仕事中は敬語です。」
私たちも A 君、B 君ではなく、A さん、B さんと呼ぶようにし、敬語で仕事の説明をしました。
個別のスケジュールから作業内容について、報酬、余暇活動など、今後やまびこ工房で仕事する人と同様に説明し、作業準備をしてもらいました。

やまびこ工房の利用者は作業をします。それはどうしてなのでしょうか？それを掴み取ってくれたらいいなと思い、ダイレクトメールの仕事をしてどうだった？と聞いたところ、「楽しかった」「疲れた」という返答がありました。何か新しいこと取り組むと、最初はやり方がわからなくて、でも段々出来るようになって、楽しくなって、疲れて、でも終わると達成感があります。私たちは仕事が楽しいものだと思います。仕事をもらってきたり、仕事に代わるようなものを用意して、取り組んでもらっています。

第三日目

自主製作品準備、刺繍やビーズの準備や利用者の行動記録も書いてもらいました。行動記録は一人の利用者に向き合うための最良の方法です。さらに部外者を気にする利用者 C さんとあえて同じ時間帯に昼食を食べてもらいました。普通の見学者ならまずしません。新人職員でも三日目に鉢合わせにすることはしません。しかし目論見があったのです。C さんは中学生に対して悪いイメージを持っているのです。中学時代にどうも嫌なことがあったようなのです。その悪いイメージを払拭するのも支援です。この 2 人ならいい印象を与えてくれるかもしれないというものでした。会話をして欲しかったのです。A さん、B さんにとっては自閉症を感じる場になるだろうし、C さんにとっても中学生に対する偏見を是正する可能性に賭けたのでした。
　そこでまず昼食時にさりげなく存在をアピールするのは伏線になります。突然、見知らぬ方を受け入れることが難しいのです。昼食時にやはり気になり、彼らは何者かを職員に聞きます。その後すぐに「気にしない」と拒否しました。作業部屋に戻ると気になるようで職員に聞きます。興味を引くよう会話しているうちに中学生に会おうという気になってくれました。時間を指定して作業部屋に来る設定をすることが出来ました。実際は会話というより C さんから A さん、B さんへの一方的な自己紹介でした。双方向というのは難しいのです。その日の C さんの帰りを A さん、B さんが見送りました。C さんは機嫌よく帰って行きました。
　最後に前頁に掲載した感想を書いてもらいました。何でも感じたことを書いてと伝えたのですが、難しかったようです。もう少しテーマを絞って、まとめ方の手順も伝えるべきでした。ただ自閉症はこんなものと決め付けた意見が出なったのはいいと思います。わからないと思うなかでの体験だったと思います。わからないときはひたすら感じようとするものです。感じたことは覚えていて、いずれ言葉を獲得していくでしょう。それがどんな言葉に育つか楽しみです。（薬師丸）

後援会のページ

やまびこ工房地域交流バザーが5月31日に開催されました。当日はあいにくの小雨模様の天気でしたが、多くの方にご来場いただきました。

お父さん達はビールを飲みながら、焼きそば、フランクフルト、味噌おでん等を味わっていました。お母さん達はバザーの商品や花の品定め、手工芸品の観賞を楽しみ、子ども達はカブト虫の幼虫に興味を示し、ペットボトルボウリングに興じていました。また、食堂では、ゆったりとコーヒーを飲みながらフルート演奏を満喫し、それぞれ楽しい1日を過ごしていただけたと思います。

この地域交流バザーには多くの方々に関わっていただいています。バザー実行委員の皆様には、数回の事前打ち合わせに参加いただき、近隣地区等へのチラシ･ポスターの配布もお願いしました。工房職員の方々には当日のテント張り、模擬店での販売に協力いただき、ボランティアの方々には駐車場の案内でサポートしていただきました。毎年新鮮な野菜を提供してくれる近隣の支援者、楽しい音楽を聞かせてくれる演奏家の皆さん、そしてバザーを楽しみにして会場へ足を運んで下さる近隣の方々もいらっしゃいます。

支援者の方々、近隣の方々とやまびこ工房との交流がより活発になればと思っています。交流バザーがその一助となるよう、後援会としても楽しく充実したバザーを今後とも企画したいと思いますので、より一層のご支援をお願い致します。

（風の谷後援会会長　鈴木秀美）

【更新・個人】平成 21 年 1 月 16 日～平成 21 年 6 月 30 日（敬称略）

（相模原市内）

森合貞雄、佐藤清一、清水徹、斉藤敦仁、山﨑テル代、井上進、大久保敬二、川島和章、高田晋、辺見祐二、谷口博恵、豊田幸男、堀田脩司、篠崎繁雄、小松克明、芳賀道子、永山明彦、岩崎圭子、小原マサエ、萩原春夫、萩原莉恵子、鈴木秀美、鈴木フミ、川合義正、小川英治、柳井晶子

（その他の地域）

佐藤辰男（厚木市）、上城洋一（座間市）、佐々木継生（北九州市）、大久保秀俊（秦野市）、政野大（茅ヶ崎市）、水田敏弘（寒川町）、酒井艶子（川崎市）、舟部充徳、山本昭子（町田市）、田中ヒロ子（海老名市）、下田浄（所沢市）岩崎秀二（小平市）、成瀬富子（平塚市）、村上伸治（熊本市）、中島敏晴（札幌市）、日野資純、日野朝子、和田眞理子（静岡市）、阿部よし子、石渡和実、安藤紀子、青山恵子（横浜市）

【新規・個人】

菊池みどり、井上響子、岡田紀子（相模原市）、中塚正彦（座間市）

【更新・団体】

（有）伸和トラスト、相模原やまびこ会

【ご寄付・ご協力】

依知の会、キャタピラー東日本株式会社、アンサンブル・イベリス、(有)伸和トラスト、新宿自治会、新宿小学校、ワーカーズコープ・キュービック、相模原市ボランティア協会、松岡清市、宮田加奈子、木下英夫、畠山省治、佐藤辰男、柳場秀雄、高久悦子、JA 相模原市営農センター、他大勢のみなさま

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人　風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員　一口：3,000 円／年間　　団体会員　一口：10,000 円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒229-1124　『風の谷後援会』事務局
相模原市田名 7236-3　社会福祉法人「風の谷」内　TEL：042-760-1033　FAX：042-760-7115
郵便振込先　口座番号　００２３０－１－１５３４５